

第5回かづの未来会議

日時：令和8年2月16日（月）18:00～19:00

場所：文化の杜交流館コモッセ1階「研修室1・2」

出席委員6名（欠席：6名）

出席職員：市長（以下事務局）

〔政策企画課〕次長、政策監、主査、主査、主査、主事

1 開会（進行：政策企画課 主査）

ただいまから、第5回かづの未来会議を開会いたします。

2 会長挨拶

市長をはじめ市職員におかれましては市民生活のためにご尽力いただき感謝申し上げます。任期中には市議選や市長選があったが、そのような中でも後期基本計画が示され、委員の皆様によって積み上げられた意見は大きな意味のある歩みであったと感じている。

2年間にわたり委員の皆様よりご意見をいただいていたが、今回はその意見を反映した後期基本計画（案）の最終確認の場となっている。ここで整理される内容についても計画に反映されるため、積極的な意見交換をされたい。

3 議事

（1）第7次鹿角市総合計画後期基本計画（案）について（資料1・別添資料）

説明：政策企画課 政策監

委員）重点的に取り組んでほしい点として、公共施設の集約化について、未来に負担をかけないためにスピード感を持って取り組んでほしい。

市長）ただ削減するだけでなく、充実させる部分も示していかないと、市民の不安が募るだけである。

委員）自分の住んでいる末広地区は人手不足であり、将来、自治会としての機能を維持していくことが難しい。再編は難しいと思うが、これからは周辺の自治会と協力しながら機能を維持をしていくことが必要だと感じている。市として周辺自治会と交流を深めつつ、話し合いができる場を設けてもらうことは可能か。

市長）人口減少は仕方のないことであり、少ない人数で作業をこなしていくために建

機免許を取得するなど、新しい視点を持つことが必要だと感じている。また、世代交代ができずノウハウの引継ぎができなくなっていく悪循環を解消するため、若い人を自治会内の上の役職に積極登用させていくことが有効だと感じている。そのほか、自治会長や役員に負担が集中する仕組みの改善のために、根本的な自治会内の組織体制の在り方や、残していくべき機能について、市長として各自治会と話し合う機会があると良いと感じている。

委員) 自分の自治会もその近隣の自治会も担い手が減ってくることは事実であるので、市で取りまとめて自治会間での連携体制の構築を積極的にやっていった方が良いと考えている。

事務局) 自治会に関する課題感については取組方針 31 で触れている。根本的な課題として、誰がリーダーシップをとるのが決まらないことが挙げられる。まずは委員の提案を他自治会の会長や地域づくり協議会に共有し、地域づくり協議会の事業として取り組んでいくことで、多様な主体のかかわりによる自治会の機能維持のお手伝いできればと考えている。

委員) やはり世代交代が進まないことに課題を感じている。

事務局) 上の世代から色々なことを教わったり、検証していくことは大事なことだと捉えている。その点については、各自治会内で情報や伝統が伝わっていくように、集落支援員を活用しながら自治会の活性化に取り組んでいきたい。その上でもう手段がないとなれば、周辺自治会との連携ということになってくる。しかし、例えば自治会長や役員に負担が偏っているようであれば集落支援員を活用し、自治会体制の点検をしてもらえればと思う。

市長) 集落支援の方向性について、自治会によって、人数、人の熱意、交通事情など様々な違いがある。そのため自治会の体制づくりは均一なものではなく、それぞれの地域においてそこに住む方々の熱量を大事にしていきたい。

委員) 市長として、後期計画の中で最も力を入れたい部分はどこか。

市長) 未来への投資である。自治会の担い手にも通じるが、若い世代が主体的に地域を引っ張って、それを周りが応援するというような風土に作り替えていかないとはいけないと思う。そういった経験を若いうちにどんどんしていくことが望ましい。今までだと学校と社会との垣根みたいなものがあつたかと思うが、今はもうそのような時代ではなく、学生の時からどんどん能力を発揮して育んでいくところに注力していきたい。

委員) 高校を出たら就職というステレオタイプがあるが、起業を視野に入れてもらうなど、若者が挑戦できるような選択肢の開拓ができれば、若者の考える力や主体性を育むことができ、自治会の担い手としてリーダーシップを発揮できる人材が出て

くと思う。市で、起業支援などをはじめ、若者が一步を踏み出し挑戦することを後押しするための支援があればいいと感じている。

市長) 委員のおっしゃった世界を具体的にイメージできることは大切だと思う。知識としてだけでなく、自分が実際にその人生を歩むことを視野に入れられるようになるとよい。やはりみんな仕事がないから帰ってこない。そこを未来への投資として学生のうちから、全体の1～2割でもよいのでそういった人を育むことができれば新たな雇用を生む一助になると考えている。

委員) 熊について、市内に熊の解体施設を設置するにあたり、熊から出た血液の処理にコストがかかると保健所から伺っている。設置にかかる企画書を作成するなど、自分なりに動いてみているが、難航している。今年度は農家や一般市民もかなり被害を受けている。また、冬眠せずに活動している熊もいることから、今後はより一層シビアに市民の命に関わる事態になるのではないかと考えている。市として色々と手助けしてほしい。

事務局) 熊対策については、来年度以降もしっかりと予算をつけて取り組んでいく。熊の生態については様々な意見があると思うが、その中で熊の生態をしっかりと把握しつつ、科学的根拠に基づき対応を検討していく。また、目標値を設ける形で将来的に熊の数を減らしつつ、生息数をコントロールできるように取り組んでいく。

委員) 被害者が少数であっても甘く見ず、しっかりと取り組んでほしい。

委員) 鹿角高校の魅力化について。運動部だけでなく、文化部でも実績を残している生徒もいることから、支援の幅を広げてほしいと感じている。

市長) 高校魅力化については、運動部はまずは一点目ということで動き始めている。しかし、単なる市の押し付けでは良くないということは考えている。将来的に鹿角高校がどのような方向性で魅力を高めていきたいのか、関係者の意見を取り入れることが必要である。

委員) 母親としての意見だが、若者に責任や苦勞が集中しないようにしてほしい。市の政策として、「若者」という言葉が多く、頑張りを求められる子どもたちが苦しい思いをしていると感じる。今の子どもたちは十分に頑張っていると思うので、その部分については周りの大人が頑張りを評価し認めることも大切だと思う。

事務局) 今の子どもたちをしっかりと評価することは確かに大切だと思う。頑張れ頑張れと言うばかりでなく、しっかりと評価もするようにしたい。

委員) 八幡平のデマンドタクシーの実証実験について、現状の公共交通の体制では維持が難しいから実施しているものと思うが、これから市内の公共交通が具体的にどのような形態になっていくのか情報を発信してもらえると地域としてもありがたい。

事務局) 乗客が少なくなってきたことに加え、運転手も人手不足である。今後の方向性としては、国道などの幹線道路を走るバスは残しつつ、枝葉の部分にあたる小さな道路は地域の実情に合った運行を考えていく必要がある。現在実証実験中の八幡平では、八幡平市民センター以南の区域設定でデマンドタクシーを運用中である。この実証実験を通して課題を把握し、他の地区にも展開していきたいと考えている。

4 その他

事務局) 後期基本計画(案)は3月11日までパブリックコメントを実施しているため、委員の皆様も引き続き意見があればお寄せいただきたい。

5 市長挨拶

市長) 会長を始めとして、委員の皆様にも2年間に渡り本市の将来について熱心に議論を重ねていただき感謝する。これまでの会議で数多くのご提案ご意見を頂戴した。皆様との対話を通じて鹿角の将来像、目指すべき方向性を共有できたことは本市にとって大切なことであったと思う。

本計画において最も重視しているのは若年層、特に女性の流出が本市の人口構造に大きな影響を与えているという現実を逃げずに真正面から受け止めるということである。この課題に真摯に向き合いながら持続可能な地域社会の形成を目指していきたい。この取組が若者への投資であり未来への投資と考えている。

ただ、若者に投資したものはしっかりと全ての世代へ還元されるようにしたい。その先にあるのが市民のウェルビーイングの向上であり、具体的な幸せの形については、市民の皆様と考えながら一緒に進んでいくことが大事であると考えている。

若者に限らず、高齢者も子育て世代も働き盛りの世代も全ての市民が「ここに住んでいてよかった」と実感できるまち、そして、安心して暮らせる生活基盤を整え、地域で支え合うという関係性の中で、一人一人が自分らしく自分らしくというところで幸せを感じられるまちの実現に向けて頑張っていきたい。

ただし、この取組は、行政だけでできるものではなく、むしろ市民の方々や企業・団体など多様な主体を巻き込みながら、それぞれの立場でしっかりと大きな方向性を共有して協力し合うということが大切だと考えている。

計画策定自体はゴールではなくまだスタートラインである。今後も市民の皆様の声を参考にしながら、将来に希望を抱いて暮らせる鹿角を一緒に作っていくために、改善を重ねながら進んでいくということが大切だと感じている。

委員の皆様には、今後も鹿角の未来を共につくる仲間として身近なところから参

画を賜るよう、よろしくお願い申し上げます。

以上（19:00 終了）